

## 【ニュージーランド短期留学滞在記】

### インターンシップ・イン・ニュージーランド

横山美瑠姫（東北公益文科大学公益学部3年）

2015年2月13日から3月16日までの約1ヶ月間、ニュージーランドに留学をしてきた。最初の2週間はワイカト大学での語学研修、その後1週間はオークランドでのインターンシップだった。

これから、私のニュージーランド生活の最後1週間を綴っていこうと思う。なぜ、最後の1週間なのか。それは、私にとって海外でのインターンシップは初めての経験だったからだ。その初めての経験の記録をここに残そうと思ったのだ。

私は、**Kiwi Valley Farm Park** という農場の動物園のような所でインターンシップを行った。初めて名前を聞いた時は、「キウィのいる農場の公園」と直訳しすぎて、「キウィって農場にいる動物なの?」「そんな身近に感じる動物なの?」といった疑問ばかりが出てきて全く想像がつかなかった。キウィという動物は、ニュージーランドの国鳥なのだ。しかし、ニュージーランドの生活を通して“**Kiwi**”という単語には“ニュージーランドの”という意味があることを知った。ここで初めてキウィとは関係ないことに気付いた。

初めての出勤日。私は2人の先輩と、期待と不安を抱きながら **Farm Park** の扉を開けた。そこには、1人の妊娠している女性が立っていた。彼女の名前は **Crystal** だ。私たちの担当で仕事の基本的なことを教えてくれた。指定のTシャツを受け取り、奥へ進むと中学・高校生くらいの子たちが仕事をしていた。お互いに自己紹介を済ませ、次に施設案内へと移った。**Kiwi Valley Farm Park** には、ウサギ、モルモット、ラット、鶏、アヒル、豚、牛、馬、ヤギ、オポッサムと数多くの動物がいた。やはり通常の動物園とは異なり、動物の種類が農場などに多くいる動物を扱っていた。一通り案内が終わり、早速私たちに仕事を与えられた。それは、これらの動物とお客様をふれあわせることだ。もちろん、お客様は日本人ではない。語学研修の時とは異なり、日本語に頼ることはできない。ある程度の動物とのふれあい方を教わってから、お客様が来る場所へと移動した。するとすぐに親子のお客様が来た。私は、緊張から言葉を発することが出来なかった。すると、それを見ていた **Crystal** から「**You say “Would you hold any animals?” to customer.**」と言われた。きっと、何も出来ずに立ち尽くしていた私を助けてくれたのだろう。しかし、これをきっかけにお客様へ積極的に話しかけやすくなった。緊張も徐々に減っていき、動物とふれあわせることだけを仕事にせず、お客

様との会話も増やしていった。インターンシップの前の語学研修がしっかりと身につけていたのか、聞き取りはそんなに難しくはなく、簡単な会話だったら楽しく話すことができた。そして、慣れてきた頃に嬉しい出来事があった。それは、動物に触れることを恐れていたお客様に対して、ここの動物の安全性や可愛さを伝えたことで、恐怖心を失くし動物とのふれあいを楽しんでもらったことだ。そのお客様というのは、4歳くらいの女の子で小さな動物を触ることも拒んでいた。しかし、私は動物への恐怖心を残したままにしてほしくなく、女の子の目の前にモルモットを持っていき、「動物は恐くないんだよ」ということを伝えた。この気持ちが伝わった時は、嬉しさでいっぱいだった。女の子にも帰り際に「Thank you」と笑顔で言われ、インターンシップ初日から、良いスタートを切れたと感じた。

2日目は、午前中に初日と同様の仕事を任され、午後からは新しい仕事を任された。それは、動物の小屋掃除とえさやりだ。私は、14歳のスタッフの女の子と一緒にウサギとモルモットの小屋掃除とえさやりを行った。やり方を教わりつつ分担しながら作業を進め、無事に小屋掃除を終えることが出来た。振り返ると、スムーズに作業を進めていったとは言えないが、コミュニケーションをしっかりとったことで問題なく終えることが出来たのだと改めて感じる。

3日目に入ると、ふれあい会場の仕事は完全に慣れてしまった。緊張もなくなり、お客様との会話にも余裕が出てきていた。さらに、この日は、日本のことに詳しいお客様との出会いがあった。お客様のほうから「日本人ですか？」と日本語で質問され、はっきりと「Yes!」と答えたことを今でも覚えている。この瞬間、私とお客様との間に笑いが生まれた。それから、出身地についてや日本の名物、なぜニュージーランドにいるのかなど、様々な話をした。この経験は、語学力の向上へとつながっただろう。午後からは、また別の仕事を与えられた。与えられたのは、馬を別の場所へと移動させるものだった。馬の扱い方は難しく、後ろに立ってしまったり、いきなり触れたりすると思いきり暴れるとのことだった。しかし、馬とふれあう手順さえしっかりしていれば問題はない。みんなそれぞれに馬が渡され、私には妊娠している馬が渡された。お腹の中に赤ちゃんがいることで歩くのも遅く、みんなとの距離が離されてしまい無事たどり着けるか不安だったが、みんなが待っていてくれたので心強かった。

私は、ホームステイ先の事情により4日間のインターンシップだった。そして最終日。最後は、今まで行ってきたことを全て行った。このインターンシップの総集編とっていいだろう。午前中は、動物とお客様をふれあわせ、午後からは動物の小屋掃除、えさやり、馬の場所移動など4日間で多くのことを学び、成長できたと実感できた。

Kiwi Valley Farm Park では、動物の世話をすることで命の大切さ、健康管理の大変さに気付くことができた。また、動物と人間がふれあうことで、動物の持つ癒しの力というものを身近で感じられた。動物とふれあったお客様は、子どもから大人までみんな笑顔で帰って行く。みんなを笑顔に出来る、そのような職場でインターンシップをできたことは大変嬉しいことだ。さらに、海外でのインターンシップは、職場の方にも、お客様にも日本語が使えないという環境が当たり前でそのような状況が、語学力・リスニング力・コミュニケーション力を非常に向上させてくれたと感じる。学校で学ぶ語学研修やホームステイでの会話とは異なり、お客様との会話は教科書や電子辞書が手元にあるわけではないため、その場でのリスニング力や語学力が重要となってくる。これらが自然と身についてくれば、積極性が高まり、コミュニケーション力の向上へとつながるのだ。この経験を通して得た知識やスキルは、私自身の大きな糧となり、これからの生活で役立てることが出来るだろう。また、ここでの成長を無駄にしたくないので、これからも様々なことに挑戦し続けたい。

最後に、初めての経験は大きな財産を残してくれると知った。